

地域の実情と課題

不安や困難を抱える女性の居場所づくりやピアサポート場の提供などの事業を民間団体へ委託することで、誰にも相談することができず孤立している人を、相談機関や関係団体の支援につなげる。生理用品等の入手が困難な女性や女の子に対し、生理用品を提供する機会を作ることで、困りごとやその背景に寄り添い、必要な支援へとつなげる。

事業の特徴

生理用品の配布を通じて受け取る女性の背景に寄り添い、相談機関や関係団体(支援ネットワーク)の情報を提供し、支援につなげ、民間団体の知見を活かして若年層に対しての啓発することができる。

事業の効果

【目標】ピアサポートの実施回数 96回

【実績】ピアサポートの実施回数 143回

本事業の利用状況をもとに、必要とされる相談機関や関係団体との連携や支援策を検証するとともに、利用者の声を聞き取りながら、改善点や課題を整理した。

民間団体の知見を活かして行っていくので若年層に対しての周知することができた。

目的・目標

大村市母子寡婦福祉連合会へ委託し、女性が気軽に立ち寄り、相談したりすることができる居場所の提供と、女性同士が互いに情報交換したり支えあうことのできるピアサポートの開催。

【目標】事業の利用者延べ人数 1,000人

【実績】本事業の利用者延べ人数 2,429人(R5.3月末)

連携団体

大村市母子寡婦福祉連合会、ハローワーク、ボランティア団体、NPO法人、県こども・女性・障害者支援センター、大村市社会福祉協議会、市関係課等

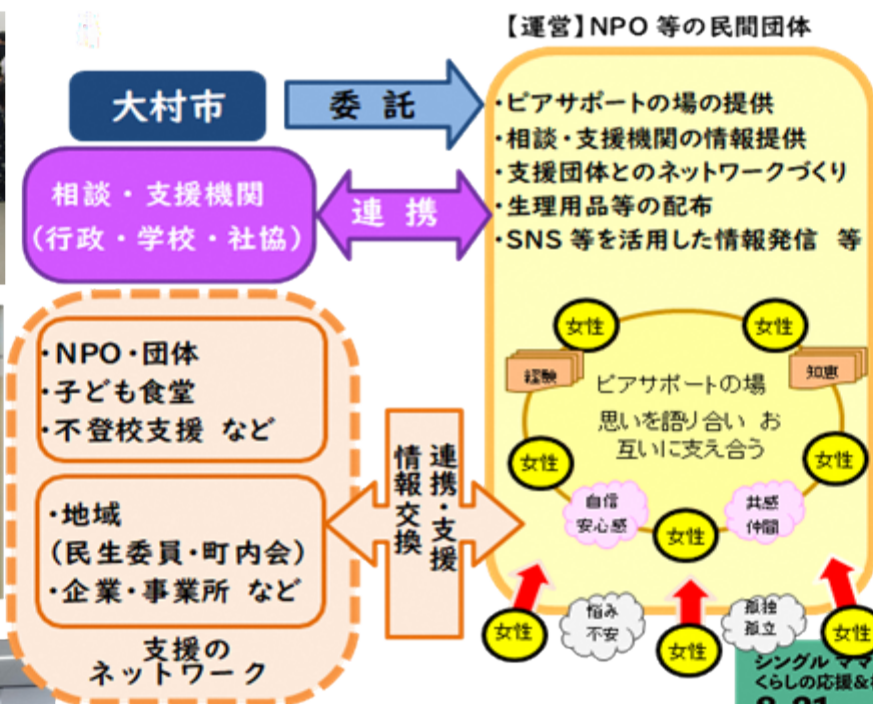
今後の課題

声を上げられずにいる女性に対する効果的なアプローチを検討する必要がある。本事業により女性が『自分らしい生き方を自身で選択できる力をつける』ためのサポートができるよう民間団体との連携や、事業の在り方について試行錯誤しながら継続していく必要がある。

事業の概要

孤独・孤立で不安を抱える女性たちが、お互いに体験や思いを語り合い、支え合うことができる場所「ピアサポートの場」を提供し、必要に応じて相談機関や関係団体（支援団体等）の支援につなげるもので、NPO等の民間団体の知見を活かし、実施する事業。

また、生理用品等の入手が困難な女性に対し、無償で提供するとともに、その女性の背景や事情に寄り添い、行政や民間の様々な支援について情報を提供し、それぞれに合った支援につなげる。



女性相談のブースを設けて、事業による生理用品と、布ナプキンや月経カップの使い方ワークショップを同時開催。

